令和５年度 学校だより　　令和５年４月２８日

にしはら

５月号

渋谷区立西原小学校

おめでとう　西原小学校　９５周年

校長　曾我　泉

４月２１日は開校記念日でした。開校９５周年の節目の年を迎えました。今年は、代表委員会による児童集会や航空写真の撮影が予定されています。

昭和３年に設立された当時の名称は「東京府豊多摩郡西原尋常小学校」でした。ラジオ体操や大相撲の中継が始まった年です。

昭和から平成そして令和へと受け継がれてきた西原小学校ですが、昭和２０年には校舎が全焼する危機がありました。しかし、近くのお寺や代々木中学校を借りて授業が続けられました。「学びを止めない」姿は、このころから大切にされてきました。昭和２０年の卒業式では、証書授与が始まって間もなく、空襲警報が鳴り響き、卒業式が中断されてしまったそうです。その方たちは４２年後に、当時の卒業生とともに卒業証書授与式を行いました。それから、西原小学校の卒業式には、毎年、同窓生の方が参加されるようになりました。つながりを大切にすることが続いています。

西原小学校ができた当時は、この地域は「すすき野原」だったそうです。スポーツセンターがある場所は牧場だったというのですから驚きです。今は緑道となっているところは、かつては蛍が飛び交う清流の玉川上水でした。地域だけではなく、学校の様子も違っていました。正門があったのは、今の西門の辺りだったようです。今の校舎ができたのは、昭和４８年です。建て替えの間は、大山公園に仮校舎がありました。５０年以上も大切に使われ続けてきた校舎ですが、そろそろ次の建て替えの話題も上がってきました。地域も学校も少しずつ変化していきます。

西原小学校の特色と言えば、６０周年のころから始まった「剣玉」の取組。７０周年のころから始まった「鼓笛」の活動。地域の JICA を生かした「国際交流会」では、世界とのつながりが感じられます。みんなが同じことを共有できることは、心のふるさととしての役割になっています。

新型コロナウイルス感染症という世界規模の大きな出来事の中でも、西原小学校は一人一台端末を用いて、学びを止めないように努力をしてきました。少しずつ校舎や校庭の様子が変わったり、新しい学びを取り入れたりしながら、これまでに 15,000 人以上の卒業生を送り出してきました。

校章にも、校歌にも表されている開校当時を彷彿とさせる「ススキ」の印。たくましく根付き、強く伸びるススキの力強さを子供たちが身に付け、社会の中で活躍することを願う気持ちは、今も開校当時と変わりません。

９５周年という節目は、これまでの西原小学校のことを振り返りながら、次にむけて、どうしていくか考えていく年になりそうです。

土曜日授業の対応に感謝

保護者の皆さんが、土曜日授業に来校される際、しっかりと来校証をつけ、参観カードを用意してくださいました。だから、受付がスムーズでした。

靴も、持ち歩いてくださっていたので、玄関が混乱することは、ありませんでした。玄関や教室内、廊下等の混雑にも冷静に対応していただきました。ありがとうございました。

人数の多い学校です。これからもご不便をおかけしますが、引き続き対応をお願いします。

５月の目標

【生活目標】
すばやい行動をして
時間を大切に使おう

【保健目標】
病気を早く治そう
よい姿勢で学習しよう

【給食・食生活】
マナーを守って食事をしよう